

むくげの会・新春合宿2008・奈良

(1)山城～飛鳥ツアー 野次馬の記



私はむくげの会メンバーでなく、特に何かについて勉強しているのでもない。ひょんなことから、京都府南部のあちこちに在住の女性たちが中心に集まりはじめている「木津川の地名を歩く会」に参加している。木津川流域の渡来に関わる地名に注目しようと思っているが、いまだに何も自分の足で調べていない。

昨年秋、旧山城町上粕の高麗廃寺跡の発掘調査の現地説明会の新聞記事をむくげ ML に流したら、尹達世さんから、以前、全国各地のコマ姓をしらべたことがあって、中世、上粕に粕氏が住んでいたと聞いた。粕氏はそこから奈良に移り、粕村(桜井市)という地名ができ、さらに福井に移って、何とか藩の家老にもなった話なども、「高麗さん物語」というミニコミ誌の連載の中で書いたことがある、とお聞きした。

というわけで、むくげの会の合宿旅行が上粕のあたりを訪ねて、そこから奈良へ、という計画を聞いた時、これはぜひとも、と野次馬参加させてもらった。

とても充実したスタディツアーだったが、帰ってすぐ書きかけた小文を、保存に失敗して消してしまって、そのあと何もまとめなかった。締め切りぎりぎりの今になって、薄れてしまっている記憶をたどりながら書いている次第で、お粗末な内容で申し訳ないのだが…

<1日目>

朝早く京都市の北部から六甲までは少しえらかった。7人のメンバーで飛田さん運転のワゴンで出発。すぐ2号線に入る直前にある、乙女塚を助手席の寺岡さんが説明する。以後ずっと寺岡さんの詳細なガイド付きの、贅沢なツアーだった(もっとも、メモも取るわけでもなく、ほとんど忘れてしまったのだが)。

大阪から生駒を通して奈良へ。行基が死んだとい

う喜光寺(菅原寺)、平城京の復元跡を左手に見ながら木津方面へ左折。24号線を北へ、木津川の鉄橋を渡ってすぐ163号線に入り、昼前に山城郷土資料館へ。館の展示はなかなか興味深かった。模型地図の恭仁京の地形が面白い。なぜ、川原の広い大きな木津川が、ど真ん中で真っ二つに割るような都の造りかたをしたのか?不思議に感じた。

京都盆地の長岡のあたりから木津川流域にかけて点々とつながるような古墳分布の立体地図も、何も知らない私にはとても新鮮だった。

切り出した場所から資料館のアプローチ脇に移されて展示されている、大阪城の石垣用の二つの巨石の鑿の痕を、城石の専門家である深田さんが、興味深そうに確かめていた。

戦前までの木津川の水運については、写真が少しあった程度で、もっと知りたいと思った。

次いで、大極殿跡に建っている恭仁小学校へ。木造のひなびた校舎が懐かしく、みんな写真を撮る。

北の低い山並みに抱かれるようにひろがる緩やかな斜面が木津川の広い川原に向かって下り、川向こうの加茂の丘陵に続く、伸びやかな開けた地形だ。

すぐ隣の、「国分寺跡」の石柱が立つ広々とした原っぱで、若い人がfrisbeeを飛ばしている。小高くなった四角い土盛りの上の大きな礎石について寺岡さんが、ここは真ん中の柱の部分がくぼんだ形式の礎石だが、ほかの所では柱の部分が凸の礎石もある、と説明してくれる。



木造校舎の裏手の小高くなった小さい広場に「大極殿跡」の石碑が立っている。小学校と遺跡がしっくり溶け合って、ほのぼのとさせてくれる場所だった。(写真左は、西福寺、粕氏一族の墓)

車で田舎道を少しだけ行った、畑地の

中の傾斜地に、映像ハヌルの「高麗王若光」でみた、椎かなにかの高い木の傍らに「高麗廃寺跡」の石柱があった。跡地はイメージよりも意外に小さい。笹か

葦を刈っただけの、ほとんど整備されていない端まで歩いてみると、瓦の破片が何個か転がっていた。

24号線沿いの開店したばかりの「焼き鳥食堂」で昼食をとった後、かつてこの地に住んでいた狛氏ゆかりの西福寺、高麗弁才天に向かう。

応仁の乱の後、狛の地に二重の支配があって、税の負担に耐えかねた農民たちが、郷土の狛氏などと共同して戦い、武士たちを追い出して、何年間で、自治の体制を作った山城一揆のことや、狛の環濠集落、その他、車中での寺岡さんの解説は詳細を極めたのだが、メモを取らなかったため、時間がたった今となっては正確になにも思い出せない。

24号線から入った、城下町のように鍵の手に折れ曲がりのある通りの脇道の突き当たりに、狛氏の菩提寺だという、小さな西福寺がある。鐘樓の脇に風化して文字も読めない墓石がかためてある小さなコーナーが、唯一歴史を感じさせる。狛守秀の肖像や系図もこの寺にあるそうだが、人気もなく、先を急ぐ。

ちょうど脇道から出てきた軽トラを呼び止めて、寺岡さんが狛弁才天への道を尋ねると、車から降りて地面に広げた新聞にマジックで地図を書いてくれた。

坂を上がっていくと、すごく狭いJRの踏み切りがあり、ヤバそう、と飛田さんがためらった末に、慎重に通り返ける。車を降りて、筍畑のような竹藪の中のみちをぬけると、弁財天の入口に出る。寺への登り道のピンクの侘びすけがかわいらしい。

寺の建物などは何もなく、小さい弁財天の社と手作りの坊があるだけでなにもない。たまたま縁側に出てこられた住職の奥さんに、いろいろ狛氏にかかわる話をうかがう。石田あゆみ似との声が上がっていたが、私は浅丘リ子と雰囲気似ている、と思った。弁才天からの帰りに、例の狭い踏み切りで、ガリッという音とともに、車の後部が接触。車を降りて見に行ったら飛田さんが、かなりの重症！と悲鳴を上げる。レンタルの車の保険を利かせるのに必要な警察の事故証明を取るのに、結構手間と時間がかかった。

蟹満寺を訪ねたが、お堂の修理中で、今年いっぱい国宝の仏像の拝観もできないという。すぐ隣の嵯原神社を見る。

行基が木津川に橋をかけるときに拠点にしたという泉鏡寺が山城の最後のスポットだった。

奈良に向い、猿沢の池の畔の魚佐旅館に投宿。われわれ以外には宿泊は1組くらいしかいないようだった。山下さん差し入れの吟醸酒がうまかった。

< 2日目 >

朝、所要で帰る信長さんと別れて、冷え込んでかなり雪が舞っている中を、飛田号で飛鳥に向う。雪がま

すまず激しく、一面に雪も積もって、予定されていた山田寺跡行きは危険なので断念。飛鳥歴史資料館のあたりは積もった雪でべたべたになっていた。

山田寺の回廊の復元展示と、高松塚古墳の発掘断面の地層レプリカの展示はさすがに見応えがあった。



(狛弁才天の石田あゆみさん)

歴史館のすぐそばにある、亀形石造物やそこから坂を少し登った酒船石を見る。びしょびしょの雪道で靴が濡れ、足から冷たい。石舞台の手前の広場で、粕汁の接待に預かり、体も心も温まる。酒船石や石舞台を2,30年ぶりに見た。何も整備されない昔の姿のほうが懐かしい感じもしたが、公園化され、観光しやすくなっているのはそれはそれでいいとも思った。

於美阿志神社と檜前寺跡を目指す、何とかいう棚田のところで道を間違えたことに気づいて引き返す。雪の棚田はなかなかの風情だった。小さい盆地の周りの丘に垂れこめる雪雲と、一面の雪景色の中の木立のシルエットがとても雰囲気を作っているあたりに於美阿志神社があった。雪の中の礎石はかなり大きい建物だったことを窺わせた。何もないのだけれど、雰囲気がある。その近くにある、キトラ古墳も訪ねたが、コンクリートの建物に覆われて、まるで発電所のような外観で、幻滅を感じた。

最後に橿原考古学研究所付属博物館を訪ねる。疲れも出てきていたのか、私はあまり集中できなかった。

雪で道も悪いので、あまり欲張らないでそのあたりで予定を切り上げ岐路に着く。

車の運転やびしょびしょにぬれた靴は大変だったが、思いがけない春の雪の飛鳥は深く印象に残った。

全く何の知識もなく、解説付きでいろいろ見ても何も残らない、そんな野次馬の駄文で会報を汚すことをお詫びしないといけないが、私にとってはすごく楽しい旅だった。狛氏の系図や守秀の肖像を見せてもらいに、上狛の西福寺をまた訪ねたいと思っている。

(きぬがさ)

●

(2) 合宿夜の部レポート

以上が、2日間の概要。が、本当の目的は、初日夜の「こし方を振り返り、迎える年の抱負をのべあう夕べ」である。以下、飛田がその証拠を記す。

<山根> まあよくやったと言えるのでは。昨年済州島研究会で発表したテーマ「歌謡史に関して論文を書いている。今後、歌曲の世界にも進出したい」。

<島津> 小西さん、尹達世さんがされているテーマ「渡来系の地名について研究したい」。

<堀内> 中国人労働者シリーズとして北朝鮮工業化との関係を11月の通信メインに書く。ゆくゆくはむくげ叢書の単行本とする。

<寺岡> この間、論文を2本翻訳するのに何ヶ月かかった。その他忙しくて阪神間の渡来関係遺跡散歩の単行本化が遅れている。来年こそは出版したい。

<飛田> 自転車その他で忙しい。今年は神戸港モニュメントを完成させ、関連論文を書き、「学界」卒業をねらっている。

<信長> 7年間「東学農民革命」の翻訳にたずさわり他のことができなかった。キリスト教関係でアレン宣教師のことを調査したい。タバコをやめてはや1年半、健康には？ゲー。

<深田> 3月に会社をやめて技術関係の会社を作る。環境カンセラーの資格も取得した。会では産業技術関係の報告をしたい。朝鮮石像にも興味をもっている。

この夜の会ではそのほかに、2ヶ月に一度のグルメの会をときどきはカラオケ会にしよう、京都の島津宅で出張ゲストディをしよう、メーリングリストを増強しメンバーを60人から80人にしよう、ゲストに***さんと呼ばう、ホームページに通信をどんどん貼り付けよう、いや、有料購読者に悪い？、もう寝よう、などなどいろんな提案がなされた。

現在むくげのメンバーは、この他に山下昌子さんと佐野二三雄さん。新入会員が数年に一名しかでない会としては貴重な新人だが、今回の合宿には都合で参加できなかった。

むくげの会の好評プログラム「ゲストディ」は、継続してひらいている。自分たちの発表の例会より回数は圧倒的に多い。案内は、むくげメーリングリストでしかしていないが、参加してみたいなあ、という方はメーリングリストに登録します。メール hida@ksyc.jp で連絡ください。

ゲストディの記録は、基本的に毎年の新春合宿の

記録の時に掲載していた。が、一昨年のソウル合宿のときに忘れて3月号に、昨年は5月号に掲載した。その後の記録を以下に載せることにする。テーマは特に決めないことが多いので、会の方でつけた適当なものである。ゲストのスピーチの内容が適当なものではもちろん、ない。ゲストで参加して下さった方々、本当にありがとうございます。

後日、学生センター朝鮮語講座の元人気講師・現延世大学教授・徐正敏さんの歓迎会に四国からかけつけた佐野道夫さんと協議が成立し、来年の新春合宿は四国に遠征することになった。四国方面の方の合流を心待ちにしています。

■ むくげの会ゲストディの記録

<2007年>

- 188 / 5月1日 任大彬(牧師)
在日の歴史、祖父の歴史
- 189 / 6月19日 田恩伊(神戸大学留学生)
韓国の現在
- 190 / 7月3日 柳教烈(神戸大学交換教授 / 釜山海洋大学教授) 釜山の日本人墓地
- 191 / 7月17日 金益見(神戸学院大学博士課程) / 「いっきょんブログ」のことなど
- 192 / 9月4日 洪ミョンスン(在日大学生)
在日の歴史調査に関連して
- 193 / 10月16日 安田良子(あんそら、ジャーナリスト) 韓国と私の関係
- 194 / 11月6日 尹達世(元会員)
沙也可の姓名について
- 195 / 12月18日 朴淳用(神戸大学留学生)
韓国の有機農業運動

<2008年>

- 196 / 1月22日 金世徳(芦屋大学講師)
韓国儒教文化と社会の変化
- 197 / 2月19日 康玲子(作家)
在日女性文学賞のことなど
- 198 / 3月18日 金俸載(神戸大学交換研究員、大邱の中学校教師) 韓国の学校のこと、サイクリングのことなど
(飛田雄一)